

地震(登下校)

教育

管理

組織

避難訓練

- 揺れたら(初期対応)
緊急地震速報等を使い「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所へ身を寄せ、頭を守る訓練を行う。教師の指示を待たず、子供自ら判断し行動できるように。
- 揺れが収まったら(二次対応)
余震や火災等の二次災害を想定し「押さない・走らない(かけない)・喋らない・戻らない」を意識して、頭を守り、避難場所へ素早く移動する訓練を行う。
- 引き渡しルールの確認
- 事前に登下校中に地震が発生した場合の子供の避難場所の確認しておく。
- 停電時の連絡手段の確認

安全点検

- 通学路・避難経路・避難場所の点検
複数の経路が確保されているか、障害物はないか。

体制整備と研修等

- 校内の体制整備
安全担当者を中核に、全ての教職員の役割を明確にする。
- 学校安全対策協議会
PTA、自治体の防災担当部局、自治会等と連携し、体制を整える。
- 持出品と備蓄品
災害時の持出品や待機時に必要となる備蓄等を揃え、保管する。
- 教職員研修
危機管理に対応した研修を行う。地域や関係機関の人材を活用する。

地震発生

校長(教頭)

緊急地震速報 / 地震動

教職員

子供

一次避難

- 全校への指示
「強い揺れが起きました。職員は分担して登・下校している子供の安否確認を行なってください」「児童生徒は頭を守りながら安全な場所に移動しましょう」

- 安否確認
- 負傷者確認

- 地震対応行動
物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所へ身を寄せる。
鞆やランドセル、腕で頭を守る。
- 車道に出ない
- 建物、ブロック塀、窓ガラス、自動販売機、看板から離れる。

校舎内外避難の決定

- ◆判断のポイント A震度5強以上
B校舎の倒壊 C火災 D津波警報等
- 子供の安否の確認 □地域の被害状況の確認
- 学校にいる子供への指示
「〇〇(避難場所)へ集合しなさい」

津波警報発令
⇒津波対応マニュアルへ

二次避難

- 持出品の携行
子供の名簿、関係機関連絡一覧表
防災ラジオ、携帯電話、救急用品
(できるだけひとまとめにしておく)
ハンドマイク、AED等

- 学校にいる子供への指示
「鞆や腕で頭を守りなさい」
「〇〇(避難場所)へ集合しなさい」
- 教職員の連携
避難誘導、負傷者運搬

- 避難行動
落下物に注意し、鞆や腕で頭を守る。学校か自宅か近い方に避難する。又は予め家庭で決めている場所へ避難する

避難後の対応

- 学校と学校以外に避難している人員・負傷者の確認の報告を受ける。
- 救急車の要請
- 避難場所の安全確保
必要があればさらに避難する。
- 災害情報の収集 防災ラジオ等から

- 学校へ避難している人員・負傷者の確認・報告
- 学校以外の場所へ避難している人員・負傷者の確認・報告
- 応急処置 救急用品の使用
- 子供の不安への対処
「もう大丈夫」「安心して」

- 安全確保
避難場所で指示をされている人の話をよく聞いて行動する。

学校災害対策本部の設置

- 被害状況の把握 学校施設や通学路の点検 □災害情報の収集 防災ラジオ、携帯電話等から情報を得る。
- 教育委員会への報告 被害状況・子供の状況、事後の対応等について報告する。
- 関係機関・保護者への連絡 災害用伝言ダイヤル、インターネット等を用いて連絡を行う。

避難所協力

- 関係機関との連携
防災担当部局や地域住民と連携した運営支援
(例)・学校の開放区域の明示
・避難者の誘導
・備蓄品の配布

引き渡しと待機

- ◆判断のポイント 震度4以下 ⇒ 下校
震度5弱以上 ⇒ 学校待機
事前の届け出 ⇒ 学校待機
- 引き渡し 予め決めていたルールのもと子供を保護者へ引き渡す。
引き渡しカードの照合、名簿チェック等

心のケア

- 健康観察等で子供の異変に気づく。
- 対応が必要か見極める。
- 保護者や主治医と連携する。
- 校内で組織的に支援にあたる。

事前

発生時

事後